



大石北小だより

大石北小学校ホームページは

こちらから →



学校通信 2月号
令和8年1月30日発行

発行責任者 校長 瀧沢葉子

学校教育目標 ともに学び 明日をつくる

令和7年度学校評価（自己評価）をお知らせします

校長 瀧沢 葉子

寒さの厳しい中ですが、学校ではこれまでともに学んできた友達、先生との信頼関係の中で、集中して学習したり遊んだり活動したりする児童の姿がみられます。

さて、令和7年度の学校評価（自己評価）を別添資料でお知らせします。

「学校評価の自己評価」は、児童がよりよい教育を受けることができるよう、学校が自らの教育活動の成果を検証し、学校運営を改善し、その教育水準の向上を図ることを目的として実施するものです。また、「自己評価」を公表することで、保護者・地域の皆様に学校教育への理解を深めていただき、児童を学校・家庭・地域と共に育んでいくことをねらいとしています。

この「自己評価」は、児童・保護者に実施したアンケートを参考にして作成しています。2月に「学校関係者評価」を学校運営協議会委員の皆様にしていただき、次年度の学校教育計画にいかしていきます。 詳しくは、別添資料「自己評価結果」と「教職員・保護者・児童アンケート結果」を御覧ください。

感謝の会 いつもありがとうございます

1月21日に日頃お世話になっている皆様の代表の方を各学級にお招きし、児童会が中心となって「感謝の会」を行いました。感謝の言葉を伝えたり、質問をしたり、一緒にゲームをしたりして、地域の方と交流ができました。

登下校の見守り、ビオトープやくすどり自然博物館の環境整備、図書や読書活動の充実、通学班編成、PTA活動…多くの皆様の御協力を得て、児童が安心して学校生活を送ることができます。また、このように人の為に一肌脱げる人間性のすばらしさに触れることができ、児童にといっては何よりの学びとなります。日頃の御協力に感謝を申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



なわとび検定に向けて がんばっています

寒風の中、2月はなわとび検定に向けてがんばっています。体力の低下が課題となっていますが、なわとびは練習を積むと技が上達し、記録も伸びることを実感できる、冬のこの時期にふさわしい運動です。

御家庭でもなわとび検定に向けて、休日には一緒に練習してみるなど励ましをいただけると幸いです。



♪埼玉県警察音楽隊♪がやって來た！

1月26日、音楽隊の迫力ある生演奏と華麗なカラーガード隊の動きに、楽しいひと時を過ごしました。



※新年度の児童数を確認するため、転出入がある場合は速やかに担任までお知らせください。

3学期が始まって3週間が過ぎました。今年の目標は順調に進んでいますか。感染症の流行が起
こりやすい時期です。油断せずに手洗い・うがいを忘れずにしましょう。
残りの登校日 6年生：あと34日、1～5年生：あと35日 よいまとめを迎えましょう！

2月 February の行事予定

日	曜 日	日 課	行事等
1	日		
2	月	B	フッ化物洗口 5・6年ズボ・ネット教室 1年昔遊び交流会（学校応援団）
3	火	A	
4	水	C	ひ おわかれ交流会 フレンドリータイム 委員会 にこにこ相談日
5	木	A	避難訓練
6	金	A	
7	土		
8	日		
9	月	B	5時間(全)14:05下校 フッ化物洗口
10	火	A	6年中学校訪問 口座振替日 にこにこ相談日
11	水		建国記念の日
12	木	A	3年社会科見学 さわやか相談員来校
13	金	A	1年幼保小交流会 2・4年授業参観・懇談会
14	土		
15	日		
16	月	B	フッ化物洗口
17	火	A	6年授業参観・懇談会 
18	水	C	月曜時間割 音楽集会 クラブ（決定日） 第4回学校運営協議会 にこにこ相談日
19	木	A	3・5年授業参観・懇談会
20	金	A	1・ひ授業参観・懇談会 口座再振替日
21	土		
22	日		
23	月		天皇誕生日
24	火	B	SC来校
25	水	C	全校集会 委員会最終 にこにこ相談日
26	木	A	6年大石中出前授業
27	金	B	4時間(全)13:20下校 家庭読書の日・北小安全の日
28	土		
※行事等は、現段階での予定です。 変更になる場合もあります。			

3月 March の行事予定

日	曜 日	日 課	行事等
1	日		
2	月	B	フッ化物洗口
3	火	A	5時間(全)14:05下校 新通学班編成・一斉下校 体育館開放停止 (~4/7)
4	水	C	6年生を送る会 クラブ最終 にこにこ相談日
5	木	A	6年卒業式練習等開始 さわやか相談員来校
6	金	A	学校応援団事務局会議 
7	土		親父の会ビオトープ保全活動
8	日		
9	月	B	フッ化物洗口
10	火	B	
11	水	C	5時間(全)14:30下校 表彰式 にこにこ相談日
12	木	B	6年中学校区交流会
13	金	B	6年中学校区交流会予備日 中学校卒業証書授与式
14	土		 学期末の短縮日課が 始まります。
15	日		
16	月	A	5時間(全)14:30下校
17	火	A	5時間(全)14:30下校
18	水	A	5時間(全)14:30下校 卒業式予行
19	木	A	5時間(全)14:30下校
20	金		春分の日 
21	土		
22	日		
23	月	A	5時間(全)14:30下校 給食終了
24	火	B	第47回卒業証書授与式 1～5年臨時休業日
25	水	B	3時間(全)11:35下校 6年臨時休業日
26	木	B	令和7年度修了式 6年臨時休業日
27	金		学年末・春季休業日～4/7
28	土		宿題はありませんが、今年度のドリルやオンラインドリルなどを使用し て新学期の準備をしましょう！
29	日		
30	月		
31	火		

大石北小学校交通事故ゼロを目指して

「自分の命は自分で守る」自転車乗車時には、ヘルメットの着用を！

令和7年度 大石北小学校 学校運営協議会 委員さんからのメッセージ No.8

～大好評につき、今年度も学校運営協議会の委員の皆様のメッセージを、連載でお伝えします～

『北小まつり裏話』

学校運営協議会委員 八木橋 希美



昨年12月、親父の会、学校応援団、PTA本部OB・OGの皆様の御協力のもと実行委員会を結成し北小まつりが開催されました。御協力・御参加いただいたすべての方に御礼申し上げます。

さて、実行委員会での開催は、様々な作業が分散され私自身は心のゆとりを持って準備に関わることができました。そんな折、小島主幹先生から「子供たちも北小まつりに関わることはできますか?」と声を掛けていただいたことをきっかけに『北小まつり2025実行委員会Jr.』を結成する運びとなりました。(先生方にはインフルエンザが猛威を振るう中、様々に御協力いただきありがとうございました)

子供たちに興味を持ってもらえるだろうか…?と不安でしたが31人の5.6年生が集まってくれました。しかし北小まつりまで全4回、1回あたり約10分という限られた活動時間のなか初回の委員会は伝えたいことの半分も伝えられずに予鈴が鳴りグダグダに終了する始末で思慮が不十分だったことに落ち込みました。

しかし2回目以降の実行委員会では子供たちの頼もしいこと。子供たち自身がやるべきことを把握し「あと5分で終わりにするよ!」等、声を掛け合い、限られた時間を最大限活用して『パンフレットの表紙の選定と掲示』『連絡通路の飾りつけ』をあっと言う間に形にしてしまったのです。実行委員会Jr.を支える大人は、ほんのきっかけを作っただけでした。

パンフレットの表紙、表紙の応募作品の掲示、連絡通路のクリスマスの飾り付けや子供たちの願い事、楽しんでいただけましたでしょうか?

又、北小まつり当日にはJr.の皆さんのが放送や、模擬店のお手伝いに入りました。緊張の面持ちでお手伝いに入った子も終わる頃には満面の笑みで活動し名残惜しそうに作業を終えていく姿を見て、とても温かい気持ちになりました。Jr.を快く受け入れて下さった各ブースの御担当の皆様、この活動に賛同し活躍する機会を作ってください本当にありがとうございました。

皆さんは大石北小のグランドデザインに『目指す家庭・地域像』という項目があることを御存知ですか?(学校だより10月号で学校運営協議会委員の三ノ丸さんがとても分かりやすくお伝えいただいています)私はこの文章の主語は「子供たち」だと思っていました。けれども今回の活動を通して、大人から子供たちに一方通行に様々な経験や知識が与えられるのではなく、関わることで相互に知識や経験を得ることができいると改めて実感しましたし、グランドデザインの主語は「私たち」なのかもしれないと考えさせられる経験となりました。

家では感情のままに怒っては落ち込む日も多く、また自身のことで精一杯で、外(地域)にまで目を向ける余裕もない日々ですが、“子供たちにとって心安らぐ家庭・地域”であるよう理想を持って、この地域で生活していきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



令和7年度 上尾市立大石北小学校 学校評価（自己評価）①まとめ

（学校評価の自己評価とは）学校評価は、児童がよりよい教育を受けることができるよう、学校が自らの教育活動の成果を検証し、学校運営を改善し、その教育水準の向上を図ること、また、自己評価を公開し、保護者・地域の皆様の御理解を得て、学校・家庭・地域とが連携して児童を育んでいくことを目的としています。学校評価の実施は学校教育法に定められています。自己評価は、児童・保護者に実施したアンケートを参考資料として作成しています。

＜評定の基準＞

A：目標をよく達成できた状態（達成度9割以上） B：目標はほぼ達成できたが改善が必要な状態（達成度7割以上） C：目標を達成できず、顕著な課題がある状態（達成度7割未満）なお、達成度は3又は4の評価の割合を基準とします。

領域	学校評価項目	自己評価	評価
A 信頼される学校運営	1.児童一人一人の多様性を認め、自己を素直に発揮でき、友達の失敗や短所も寛容に理解し合うことができる、共感的な学級をつくる。	児童一人一人が学期ごとに目標を立てたり、帰りの会などでよいところを認め合う活動を取り入れたことで、失敗も短所も許容する共感的な学級づくりを行うことができました。授業や給食などで特別支援学級児童との交流を行い、一人一人に共生社会の一員としての意識を高めることができました。昨年同様に教科担任制を導入し、学年の児童を学年担当教員全員で指導することができました。そして、児童の99%が「先生は、よいことはほめ、わるいことは正してくれます」としています。	A
	2.「個別最適な学び」と「協働的な学び」のベストミックスを研究し、主体的な学びを創造する。	学校課題研究として「個別最適な学び」と「協働的な学び」のベストミックスを研究し、児童に自己選択と自己決定をさせる手立てを図ることで、児童に主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせることができました。「大石北小のふりかえり」として「自分・友だち・これから」の視点を定めたことで、自分の学びを振り返るとともに学びを調整する態度を育成することができました。児童の96%が学習にしっかり取り組んでいるとしています。	
	3.様々な人権課題に対して正しく理解し、人権感覚を身につけ、人権課題を解決しようとする児童の育成に努める。	道徳授業の充実のほか、人権作文や人権標語などに取り組みました。また、国や県の資料をもとに児童の発達段階に合わせた人権教育計画を設定し、人権感覚プログラムなどを活用して児童の人権感覚の向上を図っています。保護者の94%が学校の雰囲気がよく児童が楽しく学校生活を送っているとしています。	
	4.児童一人一人が個性や能力を発揮して行動できる環境づくりに努める。	児童理解・生徒指導についての教職員研修を行うとともに、校内で生徒指導・教育相談・特別支援教育について全教職員が分掌組織に参加し、連携しながら共通理解を十分に行うことができました。関係職員でのいじめや生徒指導等に関する対策会議及び保護者、関係機関との連携を推進した結果、100%教職員が組織的な環境づくりに努めているとしています。	
	5.教職員が課題を共有できる傾聴的な組織となるよう努める。	教職員の100%が傾聴的組織であると評価しているように、課題を共有して業務にあたることができました。しかし、個々の職員の業務については多岐にわたることもあり、時間外在校等時間平均の縮減は2時間程度に留まりました。今後も業務の焦点化や会議設定のタイミングなどについて改善を進める必要があります。	
B 豊かな教育活動	6.児童一人一人が「自分のこととして」深く考えることができる道徳の授業を行う。	学年担当教員が学年でローテーションを組んで授業を行うことにより、教材研究をより深く行うとともに、多面的な児童理解につながりました。児童に対しても様々な教員の授業を受けることで多様な学びの機会をつくることができました。心の教育については保護者の89%が学校の取組をできていると評価しています。	A
	7.児童が安全に対する意識をもって、主体的に運動する体育の授業を行う。	体育科授業研究会を行うとともに、特に3～5学年では教科担当とし、運動量の確保や規律などの安全面についての指導を統一して行うことができました。児童の90%が運動をすることが好きだと答えています。しかし、体力低下の課題があるため、学校での体力向上の取組について検討をする必要があります。	
	8.健康・食・安全に関する教育を、計画的に実施し、児童が適切な行動をとることができるように指導する。	栄養教諭・養護教諭が関わる授業を全学年で実施しました。また、アレルギーや身体的に配慮が必要な児童については全教職員で対応を確認・共有をしました。避難訓練は、火事、不審者、地震の想定で3回実施しました。施設の点検については、教職員による定期点検の他、学校運営協議委員にも点検を行っていただき、安全対策を講じることができました。教職員の90%が児童が適切な行動をとるために必要な指導ができていると評価しています。	
	9.「上尾市英語力向上プラン」に基づいて、ALTと連携を図り、主体的な活動を取り入れた外国語等の授業を工夫する。	6学年では小中一貫教育の視点から、大石小と同じ外国語専科教員が、3～5学年では学年の教科担任がALTとともに、児童が楽しくコミュニケーションをとる活動を中心に行いました。6学年では、複数のALTとオンラインで交流する活動を行い、直接ネイティブスピーカーと英語でやりとりをする場を設定しました。1・2年生の授業は公開授業を行いました。児童の92%が英語の授業が楽しいと答え、保護者の89%が教育を適切に実施しているとしています。	
	10.情報に関するルールなどを家庭と連携して定着させ、「安全・責任・相互尊重」を重点とした情報モラル教育を計画的に行う。	学習者用端末の使用は日常となり、児童は学習における課題提出や自習課題、宿題での活用ほか、係活動など学校生活の中で端末を使いこなすことができるようになっています。来年度からは各学年の端末技能段階を整理して指導する予定です。教職員の87%が家庭と連携していると評価しましたが、個人所有の端末によるSNSトラブルが発生するなど、情報モラル教育について、さらに家庭との連携や情報発信について工夫していく必要があります。	
	11.身の回りの環境と積極的に関わり合い、主体的に行動できる教育活動を工夫する。	環境委員を中心におやじの会やPTAと協力してビオトープを維持しています。また、児童の主体的な学びの場として、校舎内にくすり自然博物館を学習に活用するとともに、生き物を身近に感じられるようにしています。1学年の鈴虫の観察、昔の遊び体験、2学年のさつまいも体験、ホタル観賞会等の学びは学校応援団や企業の協力を得て行いました。	

C 健全な児童の育成	12.いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの早期発見・早期対応を組織的に行う。	いじめ認知を積極的に行い、生徒指導部会やいじめ防止対策委員会を通じて早期対応と未然防止に努めました。聞き取りや経過観察の際には、複数対応を原則として、客観的な対応ができるようにしています。いじめの認知件数は、12月末時点78件でした。また、いじめ防止及び対応に関する教職員研修を行う他、クラスでの標語づくり、いじめ防止サミット報告会等の取組で児童の意識向上を図りました。	B
	13.不登校・長期欠席児童には、対応マニュアルに基づいた支援、早期発見・早期支援を組織的・計画的に対応する。	年度当初の対応マニュアルの確認の他に3回教育相談研修を実施し、担任を中心として個別に対応しました。児童や保護者の思いに寄り添った対応を検討するとともに、市の様式を活用して支援引継を確実に行う体制としています。また、教育センターやSC、医療などの関係機関への接続を強化しました。教職員が対応するSSRを毎日開設し、対象児童に個別に対応し、週1回配置のSRTと担任の情報共有も行いました。病気や経済的な理由を除いた30日以上の欠席児童数は、12月末で13人でした。	
	14.清掃活動、係・当番活動、委員会活動等を通して、人のために進んで働き、共に助け合って生活する態度を育成する。	清掃ではMSK（もくもく・きびきび・すみずみまで）を合言葉に、期間中はほぼ全ての児童が目標を達成していました。くすりクリーンDAYには多くの保護者が参加し、校内美化を推進することができました。係・当番活動での一人一役分担などの役割を果たす経験を積めるようにしたり、全校で「がんばる」に取り組むことにより、相互によさを認め合うことで、自己有用感を高めることができました。児童は97%は掃除や仕事にしっかり取り組んだと評価しています。	
	15.図書館支援員と連携して、読書に親しむことができる取組を工夫する。	図書館環境を整え、読書に興味関心を引くような仕掛け（例：読み聞かせ会、bingo、すてきな言葉集め、54字の物語、本の福袋、大石北小大ピンチ図鑑）をしました。貸出冊数は一人あたり60冊近くまで伸びました。教職員の97%が図書館支援員と連携して取り組むことができたと評価しました。しかし、保護者の39%は家庭読書は不十分であると評価しました。家庭での読書習慣の定着は本校の課題といえます。家庭読書の日の取組の工夫をはじめ、保護者・地域への情報発信を含め、さらに連携した対応が必要です。	
D コミュニティ・スクール	16.家庭・関係機関と連携を図り、個に応じた指導を充実させる。	児童の多様な課題に対して、学校が家庭と丁寧な相談を行い、必要に応じて関係機関と連携した件数が増加しました。特別な配慮を必要とする児童については面談を重ね、教育支援プランを作成して、保護者と合理的な配慮の形成を行いました。アピースマイルセンター4名を低・中学年に重点配置し、学習などの学校生活における支援を充実させました。教職員の97%は指導の充実を実感しました。	B
	17.地域の方やゲストティーチャーなど、多様な人との関わりをつくる。	学校応援団や企業等の方をゲストティーチャーとして迎えた授業を学校公開時に行い、保護者が参加できる形にしました。毎日の登下校時の見守りでは、児童の安心安全の確保のために登下校路についての情報交換を行うなど、多くの方の支援をいただきました。挨拶については地域の方や保護者アンケート等から課題として指摘を受けており、高学年を中心に自主的なあいさつ運動等が見られますが、意識が高まるよう継続して取り組んでいきます。	
	18.学校運営協議会・PTA・学校応援団・他機関等を活用して、豊かな教育活動・学校行事を工夫する。	今年度から実行委員会が主催となった北小まつりでは、家庭や地域の関わりを深めるとともに、児童も実行委員会Jr.として運営に参加することができました。保護者アンケートで指摘のあったPTA活動については、スリム化に向けた会議・打合せを重ね、来年度の活動は大幅に変更します。教職員の87%、保護者の87%が、学校がコミュニティ・スクールとして地域と連携し、豊かな教育活動や学校行事を工夫しているとしました。	

【用語解説】

人権感覚育成プログラム	児童生徒が自分の大切さとともに、他者の心の痛みや感情を共感的に受容する想像力や感受性、意欲等を育成することを目的とした埼玉県作成のプログラム集
上尾市いじめ防止子供サミット	児童生徒一人一人がいじめを許さないという強い意志を持ち、自分たちの手でいじめを未然に防ぐという意識を高めることを目的として毎年12月下旬に実施
SC（スクールカウンセラー）	いじめや不登校など、学校・家庭における悩み事の相談を専門とする。本校では月1回来校
SSR（スヘル・シャルサホートルーム）	教室に入りにくい児童が学習などをを行い、教室につながるようにすることを目的とした部屋
SRT（サホートルームティーチャー）	SSR担当支援員。本校では毎週木曜日に来校
がんばる	本校の学校課題研究における取組。自分ができるようになったことや頑張ったことを風船の形の紙に貼って掲示

令和7年度 上尾市立大石北小学校 学校評価（自己評価）②割合表

	自己評価（30人）	肯定的評価の割合	【参考】保護者アンケート結果（482人）	肯定的評価の割合	【参考】児童アンケート結果（659人）	肯定的評価の割合
A 信頼される学校運営	児童一人一人の多様性を認め、自己を素直に発揮でき、友達の失敗や短所も寛容に理解し合うことができる、共感的な学級をつくる。	93	学校は、児童の学力向上のために分かりやすい授業を行っている。	93	生活のきまりを守って生活しています。	97
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」のベストミックスを研究し、主体的な学びを創造する。	93	学校の雰囲気がよく、児童が毎日楽しく学校生活を送っている。	94	話をよく聞いて、学習にしっかり取り組んでいます。	96
	様々な人権課題に対して正しく理解し、人権感覚を身に付け、人権課題を解決しようとする児童の育成に努める。	97	学校は、児童の個性や能力に応じた指導を行っている。	88	先生は、よいことはほめ、わるいことは正してくれます。	99
	児童一人一人が個性や能力を発揮して行動できる環境づくりに努める。	100				
	教職員が課題を共有できる傾聴的な組織となるよう努める。	100				
B 豊かな教育環境	児童一人一人が「自分のこととして」深く考えることができる道徳の授業を行う。	90	学校は、児童の心の育成にしっかりと取り組んでいる。	89	運動をすることが好きです。	90
	児童が安全に対する意識をもって、主体的に運動する体育の授業を行なう。	97	学校は、児童の体力向上にしっかりと取り組んでいる。	87	安全に気をつけて、登下校しています。	99
	健康・食・安全に関する教育を、計画的に実施し、児童が適切な行動をとることができるように指導する。	90	学校は、生徒の健康や安全、事故防止に配慮した教育活動を行っている。	94	英語のじゅぎょうは楽しいです。	92
	「上尾市英語力向上プラン」に基づいて、ALTと連携を図り、主体的な活動を取り入れた外国語等の授業を工夫する。	93	学校は、外国語教育を適切に実施している。	89		
	情報に関するルールなどを家庭と連携して定着させ、「安全・責任・相互尊重」を重点とした情報モラル教育を計画的に行なう。	87	学校は、連絡や児童の指導においてICT機器を効果的に活用している。	89		
C 健全な児童の育成	身の回りの環境と積極的に関わり合い、主体的に行動できる教育活動を工夫する。	97				
	いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの早期発見・早期対応を組織的に行なう。	100	教職員は、生徒や保護者の相談に親身になって応じている。	90	こまったときは、先生にうだんしています。	92
	不登校・長期欠席児童には、対応マニュアルに基づいた支援、早期発見・早期支援を組織的・計画的に対応する。	100	学校は、児童の生活指導を適切に行なっている。	92	そうじやしごとにしっかりと取り組みます。	97
	清掃活動・係・当番活動、委員会活動等を通して、人のために進んで働き、共に助け合って生活する態度を育成する。	97	児童は、家庭でも読書活動を行なっている。	61	クラスや図書室の本をよく読んでいます。	82
	図書館支援員と連携して、読書に親しみができる取組を工夫する。	97				
D コミュニティ・スクール	家庭・関係機関と連携を図り、個に応じた指導を充実させる。	97	学校は、教育活動や諸連絡等を分かりやすく発信している。	89	自分から進んであいさつをします。	86
	地域の方やゲストティーチャーなど、多様な人との関わりをつくる。	80	学校は、コミュニティ・スクールとして地域と連携している。	87		
	学校運営協議会・PTA・学校応援団・他機関等を活用して、豊かな教育活動・学校行事を工夫する。	87				

<成果・課題を明確にするために>

桃色は95%以上で本校のよい点

黄色は85%以下で来年度の課題とする